

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 国立工芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/r6-02>)

12月17日(火)～2025年2月24日(祝・月)

企画展：反復と偶然

本展は「反復」と「偶然」という工芸やデザインを特徴づけるふたつの性質に注目し、国立工芸館の所蔵品をご紹介します。同じ動きの繰り返しの造形されるものや、同じ図柄を連続させたり幾何学模様を施すことは、洋の東西を問わずあらゆる工芸やデザインにみられます。たとえば、竹工や織物は「編む、織る」という反復動作が直接作品の形状や模様につながります。また、食器などでは用途の異なるものを同じかたちに揃えることで統一感が生まれ、同じかたちのパーツで構成された物品は、見る人や使う人に心地よいリズムを感じさせます。一方で、自然素材は木目や節の具合などひとつとして同じものがなく、制作工程での火力や温湿度、力の加減や歪みといった完全にはコントロールできない偶然性も工芸の特質です。この人為を超えた作用が、作品の味わいとなることも少なくありません。あるいは、本来均質な製品の量産を目指すデザインに、あえて偶然できたような風合いをもたせることで、量産品らしからぬ存在感が備わることもあります。反復と偶然がおりなす工芸とデザインの多様な表現の魅力をお楽しみください。



2. 五島美術館【東京・世田谷】(<https://www.gotoh-museum.or.jp/event/next/>)

12月10日(火)～2025年2月16日(日)

企画展：【館蔵】茶道具取合せ展

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約70点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懐石道具・炭道具のほか、武野紹鷗や千利休など茶人ゆかりの茶道具と楽歴代の茶碗を中心に道具の取合せを展覧します。特集展示として、茶事に用いる様々な懐石道具を同時公開します。



3. 菊池寛実記念 智美術館【東京・港】(<https://www.musee-tomo.or.jp/exhibition/schedule.html>)

2025年1月18日(土)～5月6日(火)

企画展：菊池コレクション展

「走泥社再考展」で紹介する次の時代、1970年代後半から80年代の陶芸作品を、菊池コレクションを通してご覧いただけます。1983年に菊池智は自身のコレクションによる展覧会「Japanese Ceramics Today (現代日本陶芸展)」をスミソニアン国立自然史博物館のトーマス・M・エバンスギャラリー(米・ワシントン)で開催しました。日米の貿易摩擦が問題となるさなかに日本文化を紹介する展覧会が受け入れられたことは、菊池が文化事業に注力していく契機ともなります。現在とはことなる社会情勢のもと、日本の陶芸家たちはどのような制作をしていたのか。菊池コレクションの中核を成す当時の作品を中心に紹介します。

